

西洋史関係文献調査法

仮想大学 井上浩一

※『レポート作成の手引』『ライブラリー・ガイダンス——西洋史入門編』なども参照。

※便利な文献案内の存在や、文献調査・図書館利用に関して気づいたことがあれば教えて下さい。
改訂版に生かしたいと思います。後輩のためにもよろしく。

※書誌データとは？ 文献を探すために必要なデータ（別紙井上文献カード参照）

(イ) 単行本・論文集（和書・訳書）の場合はこの4項目

①著者（编者）・訳者名 ②書名 ③出版社 ④発行年

(ロ) 単行本・論文集（洋書）の場合

①著者（编者）名 ②書名 ③発行地（＝都市）または出版社 ④発行年

(ハ) 雑誌論文・論文集所収論文の場合には以下の6項目となる。

①著者名 ②論文名 ③雑誌名・論文集名（编者） ④巻号 ⑤刊行年 ⑥ページ

【注意！】参考文献リストを作るときには必ず以上の書誌データを記すこと。

参考文献はカード式で整理すること。文献カードの作成は卒論作成の第一歩！！

[I] 書誌データが判明している場合（「この文献を読みたい！」）

A. 単行本（イ・ロ）

1) 仮想大学にあるかどうか調べる。

OPACで検索する。書誌データがはっきりしている場合は簡易OPACで充分。

2) 仮想大学になければ、他の大学・図書館を探す（和書は必ずどこかにある。国会図書館は国内で発行された書物をすべて所蔵しており、貸し出しもしてくれる）。

インターネットで他大学・他機関のオンライン所蔵図書目録を見る。

CiNii Books (サイニー・ブックス) アドレス <http://ci.nii.ac.jp/books/>

全国の大学等の図書館が所蔵する図書・雑誌の目録所在情報データベース。

Jump to Library (in Japan) アドレス <http://ss.cc.affrc.go.jp/ric/opac/opac.html>

日本の各大学図書館のOPAC、さらには LibWeb 経由で世界の図書館にもつながる。

3) 他大学・図書館所蔵図書は、紹介状（他大学図書館利用願）をカウンターで発行してもらい、直接行って閲覧・コピーする。館外貸し出しはしてもらえないことが多い。研究室所蔵で利用できない場合もある。

図書館を通じて貸し出してくれる大学もある。レファレンス・カウンターに相談。

4) 日本中どこにもない洋書

海外の図書館を検索する。とりあえず、仮想大学と貸出協定を結んでいる大英図書館のOPACを見る。詳しくは教員に相談。

アドレス http://explore.bl.uk/primo_library/libweb/action/search.do?vid=BLVU1
<http://explore.bl.uk/> だけでもつながります。

B. 雑誌論文・論文集所収論文 (ハ)

【注意】 OPACには、原則として個々の論文は収録されていない。

1) OPACの雑誌目録を引いて、その雑誌、その巻・号が仮想大学にあるか確認する。

2) 仮想大学になれば

CiNii Books で雑誌検索し所蔵大学・図書館を確認する。

3) 他大学・図書館所蔵雑誌の所収論文は、紹介状(他大学図書館利用願)をカウンターで発行してもらい、直接行ってコピーするか、カウンターを通じてコピーを申し込む(ある程度時間がかかる。もちろん費用は自己負担)。

4) 日本にない洋雑誌の論文はBLDSC(大英図書館コピーサービス)などに発注する。教員に相談すること。大英図書館のOPACは<http://explore.bl.uk/> から入って下さい。

5) 論文集に入っている論文は、その論文集を上記の単行本(イ・ロ)の方法で探す。

著者の欄に編者名を入力し検索する。あるいは著者目録を引く。編者名不明のときは論文集名=書名を手がかりに探す。

[II] 書誌データが不完全な場合(「こんな文献があるらしい?」)

【原則】 IIIに挙げる目録等で正確な書誌データを確認するのが原則。それができない場合は

A. 単行本(イ・ロ)

1) 国会図書館の目録 NDL-OPAC <http://opac.ndl.go.jp/>を検索する。

キーワードで検索すると、書名(含サブタイトル)にその言葉を含む図書が探しだせるのでとても便利です。おおいに利用してください。

2) アマゾンなど書店のホームページで検索してみる。会員になればオンライン注文もできる。

アマゾン：http://www.amazon.co.jp/ref=gno_logo(日本)ここから各国アマゾンに入れる。

紀伊国屋：<http://bookweb.kinokuniya.co.jp/>

極東書店：<http://www.kyokuto-bk.co.jp/> 洋書専門店です。

B. 雑誌論文(ハ)

1) CiNii Articles(アドレス=<http://ci.nii.ac.jp/ja>)で適当に検索する。

2) それらしい雑誌のそれらしい号の目次を適当にみってみる。苦しい……。

[Ⅲ] 特定のテーマについて参考文献を探す場合（「どんな文献があるのかな??」）

序論、まずは原始的な方法＝本棚チェック

- ・開架閲覧室はもちろん、地下の収蔵書庫にも入って、関連テーマの分類番号の棚を見る。本棚を見るのは原始的だが、手っ取り早い。
- ・大きな書店、古本屋をまわる。

※図書館や古本屋さんには思わぬ発見があって楽しい。本が好きなことは研究者の条件です。

A. 単行本＝和書・訳書（イ）——まず和書を探す。仮想大学所蔵の図書からはじめて探索範囲を広げてゆく。

1) OPAC で標題・件名などを適当に（実はこれが難しい）入れて検索する。

分類番号は『日本十進分類法』で確かめる。

2) インターネットの検索ツールでキーワード検索してみる。使い方がわからない場合は、カウンターに相談する。

国会図書館所蔵図書目録NDL-OPAC <http://opac.ndl.go.jp/>

国立国会図書館サーチ（24年1月より正式稼働） アドレス <http://iss.ndl.go.jp/>

Webcat Plus : <http://webcatplus.nii.ac.jp/>

CiNii Books : <http://ci.nii.ac.jp/books/>

Webcat Plus には本棚機能もあって、簡単に文献目録が作成できる。

3) 他大学・図書館の目録をみる。とくに、その分野を専門とする先生が所属している大学のOPACを見るとよい。各大学のOPACは **Jump to Library (in Japan)**などで確認。

4) 『歴史図書総目録』や各出版社の目録をみる。アマゾンなどのオンライン目録も。

B. 雑誌論文（ハ）——まず日本語の論文から探す。

1) 国会図書館 **『雑誌記事検索』** アドレス : <https://ndlopac.ndl.go.jp/> から入る。

2) CiNii Articles (**サイニー・アーティクルズ**) アドレス : <http://ci.nii.ac.jp/>

※直接ダウンロードできて、コピーを取り寄せなくても済む論文もある。仮想大学HP『ライブラリー・ガイダンス 西洋史入門編』参照

3) 『世界史・西洋史に関する37年間の雑誌文献目録』（参考図書コーナー、西洋史研究室）など、テーマ別論文目録を見る。

4) 各種歴史雑誌の目次・総目録をみる。『史学雑誌総目録』、『歴史学研究別冊 総目録・索引』、『西洋史学1～150号総目録』

5) 最新の雑誌論文はいずれの目録にも載っていないので、自分のテーマの論文がよく載る雑誌については、図書館の新刊雑誌センターで掲載論文をチェックする。

C. 単行本・雑誌共通（イ・ロ・ハ）——洋書も含めた文献調査

- 1) 研究入門的な書物の文献案内をみる。『世界各国史』28巻（山川出版社）、『世界歴史体系』24巻（同）、有賀夏紀他『アメリカ史研究入門』、近藤和彦『イギリス史研究入門』、西川正雄『ドイツ史研究入門』、佐藤彰一・中野隆生『フランス史研究入門』、松本宣郎他『文献解説 ヨーロッパの成立と発展』、伊藤貞夫他『西洋古代史研究入門』、佐藤彰一他『西洋中世史研究入門』、望田幸男他『西洋近現代史研究入門』その他。類似の書物多数。基本的な文献案内書は、図書館参考図書コーナー、西洋史研究室にある。

※文献探しにはなるべく新しい本をみる。古い本には新しい文献は当然載っていない。

※1冊参考文献を見つけたら、そこに引用されている文献をイモづる式に集める。

「イモづる式」文献調査法の例：①同一著者の他の文献を探す。②同一分類番号をOPACなどで検索すると同じテーマの本が探しだせる。③その他いろいろ

2) 各種文献目録

- ①『日本歴史学界の回顧と展望』全25巻、うち20ー25が西洋史関係

ヨーロッパ古代、同中世、近代Ⅰ、Ⅱ……参考図書コーナー、西洋史研究室所蔵

- ②『日本における歴史学の発達と現状』Ⅰ～Ⅶ。……西洋史研究室所蔵

- ③ブリタニカ百科事典にも別冊として文献案内がある（参考図書コーナー）。

他にも類似のものは多数あり。参考図書コーナーに並べられている。別紙文献案内の本一覧参照。

- ④『法制史文献目録』など他分野の目録も役立つ。参考図書コーナーの200番台以外のところも見ておこう。

- ⑤『史学雑誌』巻末文献目録（毎年1、5、9月号に西洋史文献目録が掲載される）……図書館雑誌センター、西洋史研究室所蔵

西洋史に関するほぼすべての日本語文献が挙げられている。卒論を書く人は、テーマが確定した段階で、これを使って包括的文献調査を必ず行なうこと。

- ⑥専門雑誌の巻末文献目録。例、American Historical Review、Byzantinische Zeitschrift

3) 裏技

- ①学情2階の目録コーナーで「卒業論文目録」をみて、そのテーマを取り上げた先輩の卒論を借り出し、その参考文献一覧をみる（ただし良い論文に限る、教員に相談のこと）。

- ②先生や先輩に尋ねる。レファレンス・カウンターで尋ねる。

4) その他、検索に便利なHPなど。

検索ツールの総合窓口**GeNii（ジーニイ）** アドレス：<http://ge.nii.ac.jp/genii/jsp/index.jsp>

アリアドネ アドレス <http://ariadne.jp/> あまり更新されていないようです。

図書・雑誌探索ページ アドレス <http://www.jissen.ac.jp/library/frame/>

D. コンピュータを使って海外のデータベースを検索する。

日本語文献の少ないテーマを選んだ人、本格的に取り組もうという人は、ここまで手を広げることになる。便利なのはさしあたり次のふたつだが、ヒット数が多すぎるので困るかも。

1) Google Books アドレス <http://books.google.co.jp/books?hl=ja>

2) Google Scholar アドレス：<http://scholar.google.co.jp/schhp?hl=ja>

Carthage + history と入力して検索すれば、カルタゴに関する文献が列挙される。いうまでもないが検索はすべて外国語です。カルタゴが英語では Carthage であることも知らないようなド素人には利用できない。

※上記、アマゾンや紀伊国屋のホームページで洋書を検索するのもよい方法。

3) 古い本なら Internet Archive：<http://www.archive.org/> で調べる。若かった頃に給料の何ヶ月分もつぎ込んで買った19世紀の叢書が、今やただで見られるのは、悔しいのを通り越して感動的です。

4) その他各国の図書館（代表的なものだけ挙げる）

大英図書館：<http://www.bl.uk/> 図書目録直通は <http://explore.bl.uk/>

米国国会図書館：<http://www.loc.gov/> 図書目録直通は <http://catalog.loc.gov/>

ドイツ国立図書館：<http://www.d-nb.de/>

フランス国立図書館：<http://bnf.fr/>

E. 書誌データが確認できたら [I] 「この文献を読みたい」へ戻り、その文献を手に入れる。

※文献検索も含めて、コンピュータの活用についてさらに知りたい人は、**服部良久他編『人文学への接近法——西洋史を学ぶ』**（京都大学学術出版会、2010年）の第6章「コンピュータの活用」、第7章7「調べ方を知る」も見て下さい。